

人材育成の取り組み

山形市小学校長会

1 はじめに

ベテラン教員の大量退職と若手教員の急増によって学校の教育力の低下が危惧されており、社会や教育の形の変化に応じた人材育成の在り方が、改めて問われている。

令和5年度はこれまでの活動に加え、若手教員にも焦点を当て、以下の取組を行った。

2 ねらい

- (1) 管理職候補者の資質・能力の向上
- (2) 若手教員の学校経営（運営）に対する意欲や資質・能力の向上

3 活動計画

- (1) 管理職候補者等研修会（8／2）
 - ①校長候補 講師：鈴木一尋 氏
 - ②教頭候補 講師：佐藤昌彦 会長
 - ③次期リーダー候補 講師：斎藤隆史副会長
- (2) 模擬面接
 - ①校長模擬2回（9／2、12／2）
 - ②教頭模擬2回（10／28、12／23）
- (3) 若手教員研修
若手教員に対する研修会2回
（7／31、11／6）
- (4) 情報共有
市小学校全体で専門性のある人材の情報を共有し、計画的に育成する仕組みづくりする。
各校長が、他校に赴き実践を伝えたり専門性を高め次の担い手へと広げていったりする教員を推薦し、とりまとめたものを校長会で共有した。

4 具体的な取り組み（若手研について）

- (1) ねらい
他校の同年代との意見交換等を通し、職務への意欲向上や、自校の課題を解決しようとする態度の育成を目指す。
- (2) 期 日
 - ①令和5年7月31日（月）

②令和5年11月6日（月）

(3) 会 場

山形市立商業高校AL室

(4) 対 象

校長から推薦された教員

※特に年齢を限定することはないが、将来リーダーとして育成したいと思われる者
※各校2名以内（推薦なしもあり得る）

(5) 事前準備

事前アンケートを実施し、課題ごとにグルーピングした。

5 当日の内容（次第）

- (1) 開会
- (2) 趣旨説明
- (3) グループ討議
- (4) 全体共有
- (5) 振り返りアンケート記入

6 参加者の振り返りから

(1) 1回目（7／31）

- 同じような年齢の他校の先生方とたくさん意見を交流することができてよかった。
- 今までは教えてもらうことばかりを求めているが、落ち着いて時間をとり自分たちで話し合うことの大切さを感じた。
- これからは是非継続してほしい。現場ではこうした対話のチャンスがない。



- 学校の教育課題は分野ごとに割り切れるものではない、グループ討議の後改めてグループを編成し、どう解決していくか話し合えるとうい。

振り返りから、1回目に参加した若手教員が、「同じような年齢」の「他校の教員」と、「じっくり話し合い」「課題を出し合う」ことで、「自分の視野の広がり」を実感したり「改めて課題を認識」したりすることができたようだ。さらに、「やるべきことが明確」になり、次への意欲やモチベーションの高まりに繋がったことがうかがえた。

以上のことから、本研修会は当初の目的が達成された、有意義な研修会であったと言える。

そこで、年度途中ではあるが2回目の実施を計画した。

(2) 2回目を実施する上で考慮したこと

①若手教員自身が課題を設定

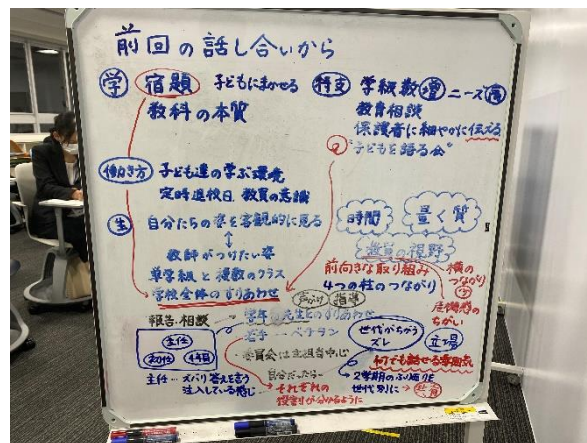
- ・今回参加した若手教員の話しぶり等を見取ったときに、十分に課題を設定できる力量の備わった若手であると考え。また、振り返りにもそのような希望があった。
- ・課題を自身で設定することにより、課題を見極める目が育ち、その課題を自ら解決しようとする意欲がさらに高まると考える。

②前回とは違う人員構成

- ・若手教員は自分とは違う様々な価値観に触れたいと願っている。
- ・教員同士で意見を交わすことで、一人一人の若手教員の視野が更に広がると考える。

(3) 研修（グループ討議）の実際

- ①進行・記録・発表者をグループごとに決める。
- ②第1回若手研で話し合ったことについて、2学期に実践したことについて各々報告する。（初参加者は、報告を聞いて前回の内容について概要を把握する。）
- ③前回話し合った「4つの柱」の中から、今回話し合うテーマを選択する。
- ④グループごとに、課題を解決するための具体的方策について話し合う。
- ⑤グループ代表が話し合ったことを発表する。



7 全体を通して

1回目の研修では、若手教員が設定された課題のもと、各学校の課題を出し合い、その課題を解決するための具体的方策を話し合うことができた。その若手教員の姿を受けて、2回目は参加教員に話し合いの内容を任せ、担当校長も話し合いを見守るようにした。

結果的に、どのグループも「働き方改革」について話し合うことが多かった。課題と感じることにについての解決策を出し合うという建設的な話し合いの方向にならなかったのが残念であった。2学期も後半に入り、日々の忙しさで自分の業務をこなすことに一杯になってしまっている若手教員の現状があるのだろうと感じた。

1回目の研修前のアンケートに記述されていたこととあまり変わらない話し合いの内容に、今の若手教員を育てるには、やはり主催者側で「ねらい」定め、話し合いをある程度コントロールしていく必要があったのではないかと考える。

8 来年度に向けて

- 若手の教員の視野を広げ、様々な視点から物事を考えられるミドルリーダー候補の教員を育てるためにも、来年度も若手教員の研修会を行っていきたい。
- 来年度も夏季休業中と11月の2回の研修を企画する。
- 学ぶ意欲が高い若手教員や育てたい若手教員の研修への参加については、来年度詳しく提案するが、参加人数によっては、2年連続しての研修会への参加は妨げない。